

栃木県わがまち未来創造事業実績書(市町総括表)  
**【単独・連携事業】**

市町名	栃木市
-----	-----

(単位:円)

No.	単位事業名		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	合計
1	歌麿を活かしたまちづくり事業	総事業費	4,859,912					4,859,912
		うち市町支出額	1,800,000					1,800,000
		うち県交付金	900,000					900,000
2	渡良瀬遊水地フェスティバル開催事業	総事業費	3,563,609					3,563,609
		うち市町支出額	2,732,000					2,732,000
		うち県交付金	1,350,000					1,350,000
3	高校生まちなか活性化事業	総事業費	111,766					111,766
		うち市町支出額	100,000					100,000
		うち県交付金	50,000					50,000
4	平成28年 とちぎ秋まつり	総事業費	31,428,717					31,428,717
		うち市町支出額	17,000,000					17,000,000
		うち県交付金	3,000,000					3,000,000
5	栃木市版地域包括ケアシステム推進事業	総事業費	621,228					621,228
		うち市町支出額	300,000					300,000
		うち県交付金	150,000					150,000
6		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
7		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
8		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
9		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
10		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
市町計		総事業費	40,585,232	0	0	0	0	40,585,232
		うち市町支出額	21,932,000	0	0	0	0	21,932,000
		うち県交付金	5,450,000	0	0	0	0	5,450,000

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	歌麿を活かしたまちづくり事業
事業主体の名称	歌麿を活かしたまちづくり協議会
代表者の名称	会長 大木 洋
事業主体の所在	栃木県栃木市万町9番25号
事業主体の概要	<p>・団体の目的:喜多川歌麿の業績をたたえとともに、栃木市の関わりを市内外に発信し、ゆかりの地として、歌麿の作品や足跡を活かしたまちづくりをし、「まちなか」のにぎわいを創出することを目的とする。</p> <p>・設立年月日:平成28年5月24日</p> <p>・構成員等:栃木市商店会連合会、栃木の例常使街道を考える会、小江戸とちぎ会、みつわ横丁歌麿通り商店会、うずま川遊会、文化団体等の協議会(役員は各団体等からの代表者20名により構成)</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>栃木市では、江戸時代の浮世絵師 喜多川歌麿の肉筆画3点(「女達磨図」・「鍾馗図」・「三福神の相撲図」)を所蔵している。平成23年にとちぎ蔵の街美術館での3点揃っての公開に合わせて、歌麿を活かした文化・芸術のまちづくりを行おうと、市民団体等が主体となり「歌麿まつり」を開催し、翌24年には、歌麿まつり実行委員会を発足、以後、毎年10月から11月にかけて開催している。まつりを開催するにあたっては実行委員会を組織し、会議を重ねながら企画内容を決定、開催してきたが、まつり期間だけの活動であると、歌麿と栃木市の関わりを市内外に十分に周知すること、並びに「まちなか」のにぎわいを創出し、まちづくりに繋げることが難しいことから、実行委員会の関係団体が、本年度「歌麿を活かしたまちづくり協議会」を設立して「歌麿まつり」はもちろん、まつり期間以外にも年間を通じて活動を行うこととなった。また、課題としては、企画内容としてイベントが土・日のみであったことや体験型イベントが少ないことなどにより、交流人口が少なく十分に観光客を取り込むことができていないことが挙げられている。</p>
事業目的	ゆかりの地として、歌麿の作品や足跡を活かしたイベントを開催し、「まちなか」のにぎわいを創出することにより歌麿と栃木市の関わりを市内外に発信し、観光客を入れ込むとともに、牽いてはまちづくりに繋げていくことを目的とする。
事業概要	<p>6回目となる本年度の歌麿まつり(10月1日～10日)としては、例年実施している「歌麿道中」に加え、今年が喜多川歌麿没後210年にあたることから、歌麿と栃木市の関わりを描いた演劇を公演した。また、関係団体が体験型を中心とした関連イベントを開催した。なお、関連イベントは、各団体の都合に応じてまつり期間以外にも開催した。</p> <p>①歌麿と栃木市の関わりを描いた演劇「とちぎ歌麿シアター」の開催(10月1日:1回、10月2日:2回の公演)</p> <p>②「歌麿道中(おいらんど中)」の開催(10月9日、予備日10日)</p> <p>③巴波川での特別船(歌麿船)の舟行(期間中)</p> <p>④関係団体による体験型を中心とした関連イベントの開催(期間中:11イベント、期間外:5イベント、通年:1イベント)</p> <p>⑤高精細複製画3点の特別合同展示(10月1日～12月25日)</p> <p>【広報関係】 県内並びに宇都宮から浅草までの東武鉄道沿線の地域へのPRを重視し、市ホームページやケーブルテレビによる情報提供や県内各市町へのポスター・チラシの送付をはじめ、東武鉄道沿線の各駅へのポスター掲示等を行った。また、本年度は、隔年で開催される「とちぎ秋まつり」の年でもあり、「秋まつり」の県内外での広報キャンペーンの際に、一緒に広報活動を行った。</p> <p>【翌年度以降の取組】 上記の事業を継続する他、協議会に研修部会を組織し、歌麿と栃木関連の資料・情報の収集等を行い、その業績を広く伝えるための研修会や講演会等の開催についても取り組んでいく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」</p> <p>【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用</p> <p>【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数:5年後に年間380万人(平成26年度末現状値 365万人)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

事業内容	28年度		支援期間の事業費計	
	事業費			
事業内容	①歌麿まつりの開催 ②関係団体による体験型を中心とした関連イベントの開催(歌麿まつり期間に限らず開催) ③高精細複製画3点の特別合同展示(10月～12月)			
事業費	4,859,912		4,859,912	
市町支出金(ソフト事業分)	1,800,000		1,800,000	
うち県交付金	900,000		900,000	
市町支出金(ハード事業分)	0		0	
うち県交付金	0		0	
その他自主財源等	3,059,912	0	3,059,912	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部 蔵の街課 蔵の街推進係
担当者名	佐藤 義美
電話	0282-21-2573
FAX	0282-21-2674
E-mail	kuranomachi@city.tochigi.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	渡良瀬遊水地フェスティバル開催事業
事業主体の名称	渡良瀬遊水地フェスティバル実行委員会
代表者の名称	実行委員長 小黒 迅
事業主体の所在	〒323-1104 栃木県栃木市藤岡町藤岡788
事業主体の概要	設立年月日:平成27年6月12日設立 構成員:全日本実業団自転車競技連盟(JBCF)、宇都宮ブリッツェン、特定非営利活動法人スカイダイブ藤岡、一般社団法人栃木市熱気球クラブ、公益社団法人日本グライダークラブ、足利マイクロフライトクラブ、サークルストライド、渡良瀬カヌークラブ、群馬県セーリング連盟
当該事業に係る地域の現状と課題	・「渡良瀬遊水地フェスティバル」は、一昨年までは栃木市及び栃木市教育委員会主催で行ってきたが、行政主体ではなく、昨年からは実行委員会を組織して、参加団体の意見をより反映できるような市民協働のイベントとして開催。渡良瀬遊水地は3,300haあり、本州最大のヨシ原でその広大な立地特性から、以前からスカイスports、ウォータースportsが盛んな場所であり、地元栃木市に熱気球クラブやスカイダイビングのNPO法人などあり、日常的に親しまれてきた。しかし、騒音やマナー、安全性、動植物に与える影響の面で、地域住民および環境保護団体との問題により、それら広大な土地や貯水池などの自然環境や地域資源を活かした活動やイベントに広がりや生み出せず、利用者や観光客のニーズを満たすことができていない。今後は本市への新しい人の流れを作るために、ラムサール条約の基本理念である環境保護と、地域資源の利活用の両面を、一般の市民および市外、県外、世界の方にPRし、ルールとマナーを守って今ある環境を未来につなげるための取り組みが必要である。県内外から新規の観光誘客の促進を図り、自然環境の保護と、これまで行われてきた広大な遊水地で特色のあるレジャースportsの利活用を強化、高立し、いかに地域住民、イベント参加者、観光客に対して環境保全の周知と遊水地の魅力のPRをできるかが観光客入込数を増加させるための課題である。
事業目的	・渡良瀬遊水地及び周辺で日常的に親しまれているレジャースportsの熱気球やスカイダイビング、グライダーなどの他、栃木市のPRを行う目的で始まったイベントである。来訪者に対し、渡良瀬遊水地および栃木市のさらなるPRを行い、交流人口の増加による地域の活性化を目指す。
事業概要	今年度は、渡良瀬遊水地の地域資源であり、水質浄化作用や湿地の代表的なヨシの利活用体験により、環境保護意識を高めてもらい、ボランティアガイドによる渡良瀬遊水地の見どころ案内を行った。治水や利水、遊水地の歴史や文化を見どころ案内をともに紹介し遊水地に対して理解を深めてもらった。遊水地で日常的に行われているレジャースportsが一瞥に介し、見るだけでなく、体験プログラムを充実することでルールとマナーを一般の方にも学んでもらうとともに、県内外からの新たな誘客を促進した。 【時期】平成28年9月11日(日) 来場者数22,000人 【会場】渡良瀬遊水地内及びその周辺 【主な内容】①よしず編み・よし紙すき体験・・・(地域資源であるヨシの活用と体験) ②ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内・・・(ボランティアによる遊水地ミニツアー) ③JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催・・・(プロの団体が参戦するロードバイクの大会) ④スカイダイビング・グライダー・カヌー無料体験・・・(広大な渡良瀬遊水地で行われる各スポーツの体験) ⑤熱気球教室、係留体験・・・(操作しながらルールとマナーを学ぶ体験) ⑥渡良瀬遊水地及び栃木市PR・・・(渡良瀬遊水地の歴史や自然環境のパネル紹介および、名産特産品紹介) 年間を通して楽しんでいるレジャースportsは、今回のイベント開催に限らず、4月のバルーンフェスティバル、7月のラムサール登録記念日イベント、8月のEポートレース大会、11月のウォーキング大会など市主催のイベントにて各種の利用団体および一般参加者に遊水地のルールやマナーの啓発に努める。翌年度以降も「ルールとマナー」を継続しながら、栃木市の宝である渡良瀬遊水地を未来につなげるための環境保全の取組を行いつつ、渡良瀬遊水地で特色のあるレジャースportsに力を入れて、新しい観光客の増加に努め事業の拡大を図った。 ・渡良瀬遊水地は地域特性として4県4市2町にまたがり、もともと市外、県外からの来訪者が多いが、広報活動においては、各種のレジャースportsを楽しむ団体の方々や一般の来訪者へ市の広報の他に、タウン誌やラジオ、HP、facebook、チラシ、ポスター等で周知を行い、県内外へのさらなる広域的なPRを行った。
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」 【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用 【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数:5年後に年間380万人(平成26年度末現状値 365万人)

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳 (単位:円)

	28年度	29年度	30年度	支援期間の 事業費計	
事業内容	①よしず編み・よし紙すき体験 ②ガイドクラブによる遊水地の見どころ案内 ③JBCFタイムトライアルチャンピオンシップ開催 ④スカイダイビング、グライダー、カヌー無料体験 ⑤熱気球教室、係留体験				
事業費	3,563,609			3,563,609	
市町支出金 (ソフト事業分)	2,732,000			2,732,000	
うち県交付金	1,350,000			1,350,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0			0	
うち県交付金	0			0	
その他自主財源等	831,609	0	0	831,609	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	総合政策部 遊水地課 環境保全ウィズユース係
担当者名	堀江 修
電話	0282-62-0919
FAX	0282-62-0922
E-mail	wise-use@city.tochigi.lg.jp

栃木県がまち未来創造事業実績書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	高校生まちなか活性化事業
事業主体の名称	とちぎ高校生蔵部
代表者の名称	菅谷 悠樹
事業主体の所在	〒328-8686 栃木県栃木市万町9-25 栃木市教育委員会事務局生涯学習部生涯学習課内
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団体の目的:ポランティアやまちづくりに関心のある高校生が気軽に集い、同世代の仲間だけでなく大人とも語り合いながら、高校生の視点による自主的な活動を展開し、栃木市の賑わいの創出に寄与することを目的とする。</li> <li>・設立年月日:平成26年4月1日</li> <li>・構成員等:栃木市内に居住する高校生及び市内の高等学校に在学する高校生並びにとちぎ高校生蔵部の目的に賛同する高校生</li> </ul>
当該事業に係る地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内の高等学校に通学する生徒が中心となり、「とちぎ高校生蔵部」を立ち上げ、まちなかでのイベントに参画している、栃木市中心部においても高齢化が進捗し、イベント等での担い手が不足していることから、高校生の視点による事業を展開し、中心市街地の活性化を図る必要がある。</li> <li>・「とちぎ高校生蔵部」の取り組みにより、高校生の地域づくり活動への関心度が高まってきている一方で、地域のイベント等での担い手要請は後を絶たない状況である。そのようなことから、まずは高校生が街なかの魅力に触れる機会を創出し、イベントに参加した高校生が栃木市の魅力に触発され、将来の地域の担い手として活動してもらえる環境整備が必要である。</li> </ul>
事業目的	高校生の視点による栃木市の魅力発信と街なかの賑わい創出
事業概要	<p>【平成28年度】</p> <p>①地元商店等の協力を得ながら、高校生がお勧めする「まちなかグルメ・観光スポットマップ」を作成し、栃木市の魅力を観光客や市内に通学する高校生に発信した。 作成部数:9,000部</p> <p>②昨年度制作したマップを活用した若者及び栃木市来訪者向けの街歩きイベントを開催した。 開催日:平成28年12月26日(月) 開催場所:蔵の街大通り周辺 参加者:10名(高校生)</p> <p>③栃木市の魅力あるロケーション(歴史的建造物や巴波川など)を活用した、若者向けの「My記念日撮影会」を開催した。 開催日:平成29年2月19日(日) 開催場所:横山郷土館 参加者:9名(高校生)</p> <p>【平成28年度実施事業の特徴】</p> <p>①マップづくりは、学割を実施する店舗数を増やす取り組みを併せて行い、マップを見た若者が栃木市に来訪し、街なかの若者交流人口を増やす取り組み。</p> <p>②街歩きイベントは、高校生に限定して実施していたが、栃木市に関心ある大学生等を含めた若者に対しても実施した。</p> <p>③My記念日撮影会は、若者のライフイベント(成人式等)の際に栃木の魅力あるロケーションを活用した記念撮影の場としての活用をPRする取り組み。(新規)</p> <p>【事業のPR方法】</p> <p>SNS(twitter、facebook)を活用し、市内外から通学する高校生及び大学生等をターゲットに情報発信を行い、栃木市への関心を高めてもらう。</p> <p>【翌年度以降の取組み】</p> <p>とちぎ高校生蔵部で活動するメンバーの加入促進に取組み、翌年度以降についても上記事業を拡充し、市外からの若者の来訪者及び市内に在住する若者のまちなか交流人口の新たな流れを構築する。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」</p> <p>【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用</p> <p>【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数 H26:365万人→H31:380万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度			支援期間の 事業費計	
事業内容	①「栃木の街散策マップ」作成 ②「高校生イチオシ!蔵の街魅力ツアー」開催 ③「My記念日撮影会」開催				
事業費	111,766			111,766	
市町支出金 (ソフト事業分)	100,000			100,000	
うち県交付金	50,000			50,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0			0	
うち県交付金	0			0	
その他自主財源等	11,766	0	0	11,766	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	教育委員会事務局 生涯学習部 生涯学習課 青少年係
担当者名	藤野 法之
電話	0282-21-2489
連絡先 FAX	0282-21-2690
E-mail	gakusyu05@city.tochigi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業計画(実績)書(単位事業調査)  
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	平成28年とちぎ秋まつり
事業主体の名称	とちぎ秋まつり実行委員会
代表者の名称	実行委員長 杉戸 洋
事業主体の所在	〒328-8686 栃木県栃木市万町9-25 栃木市産業振興部観光振興課内
事業主体の概要	<p>・団体の目的: 江戸型人形山車や獅子頭を巡行する『とちぎ秋まつり』を開催し、その優雅さや荘厳さを、市民をはじめ、全国から訪れる多くの皆様に楽しんでいただくとともに、歴史と文化に育まれた「栃木市」を広く紹介することにより、活力あるまちづくりに貢献する。</p> <p>・設立年月日: 平成28年5月</p> <p>・構成員等: (1) まつり参加町内会 (2) 栃木市 (3) 栃木商工会議所 (4) 一般社団法人 栃木市観光協会 (5) 栃木市商店会連合会 (6) とちぎの山車祭り伝承会 (7) まつり協賛行事参加団体 (8) その他関係機関・協力団体等</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>・とちぎ秋まつりは、栃木市の蔵の街大通りを会場に、県の重要文化財に6台、市指定文化財に3台指定されている山車等を所有する10町内会を中心に旧栃木市を代表するイベントとして、隔年で行われてきたが(前回は平成26年に実施)が、平成22年3月から平成26年4月までに行われた3度の合併により栃木市が現在の姿となり、平成28年のとちぎ秋まつりは、栃木市最大のお祭りとして、より一層、市民の一体感醸成につながるイベントにする必要がある。</p> <p>・また、山車所有町内会の中には世帯数が減少し、山車祭りの伝承が危ぶまれるところもあるなど、後継者不足が問題となっており、合併により大きくなった栃木市において、まつり参加町内以外の地域からの協力を得ることが課題となっている。</p>
事業目的	江戸型人形山車や獅子頭を巡行するとちぎ秋まつりを開催し、その優雅さや荘厳さを、全国から訪れる多くの皆様に楽しんでいただくとともに、歴史と文化に育まれた「栃木市」を広く紹介することにより、市内各地域からまつりへの参加を促進し、活力あるまちづくりや伝統文化の継承を目的とする。
事業概要	<p>・平成28年のとちぎ秋まつりは、各地域の小学生が山車を引く「こども山車まつり」を実施し、山車に実際に触れて愛着を感じてもらうことで、旧栃木市だけでなく、全栃木市のイベントとして一体感醸成につなげた。</p> <p>・各町内では、とちぎ秋まつりが山車所有町内で伝承され、町内会以外の新市民の参加・協力も促しながら継続できるような取り組みを行った。</p> <p>・各地域のお囃子やお神楽などの伝統芸能の発表や、来場者数増加のための各種広報宣伝及び市外での観光キャンペーン等を行った。</p> <p>【時期】 平成28年11月11日、12日、13日 ※平成28年とちぎ秋まつりは3日間で入込数38万人</p> <p>【会場】 蔵の街大通りを中心として、その周辺及び山車所有町内</p> <p>【内容】 ①山車の巡行、ぶっつけ ②市内各地域の小学生による「こども山車祭り」 ③市内各地域のお囃子、お神楽等伝統芸能の発表 ④市内内外への広報宣伝及び観光キャンペーンの実施 ⑤山車所有町内以外からの曳手募集及び継続的な参加・支援体制の確立</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」</p> <p>【具体的施策】交流人口の増加/観光資源の魅力向上と有効活用</p> <p>【KPI】主要観光地及び観光施設観光客入込数: 5年後に年間380万人(平成26年度末現状値 365万人)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	28年度			支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①山車の巡行、ぶっつけ ②市内各地域の小学生による「こども山車祭り」 ③市内各地域のお囃子、お神楽等伝統芸能の発表 ④市内各地域の観光PR ⑤実行委員会の開催				
事業費	31,428,717			31,428,717	
市町支出金 (ソフト事業分)	17,000,000			17,000,000	
うち県交付金	3,000,000			3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0			0	
うち県交付金	0			0	
その他自主財源等	14,428,717	0	0	14,428,717	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	産業振興部 観光振興課 観光イベント係
担当者名	茂呂 一則
電話	0282-21-2374
連絡先 FAX	0282-21-2683
E-mail	kankou02@city.tochigi.lg.jp

栃木県わがまち未来創造事業実績書(単位事業調書)  
【単独事業】

市町名	栃木市
事業名	栃木市版地域包括ケアシステム推進事業
事業主体の名称	栃木市地域包括ケア推進ネットワーク(あったかネットとちぎ)
代表者の名称	会長 佐々木 剛
事業主体の所在	栃木市城内町2-17-23 城内高齢者総合ケアセンター 蔵の街ひまわり
事業主体の概要	<p>・団体の目的: 栃木市の地域包括ケアシステムの確立と活動を支えるため、多職種連携により施設でも在宅でも最後まで自分らしく生きることの支援を行う。</p> <p>・設立年月日: 平成27年3月17日</p> <p>・構成員等: 栃木市医師会、下都賀郡市歯科医師会、栃木市薬剤師会、栃木市訪問看護ステーション連絡会、栃木市介護支援専門員連絡協議会、栃木市特養・養護連絡協議会、在宅介護サービス事業所連絡会、医療法人アスミス</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>栃木市では「生涯活躍のまち構想(栃木市版CCRC)」を推進するに当たり、多職種連携による地域包括ケアシステムの構築を目指しており、その過程で介護予防・日常生活支援総合事業のサービス創設、認知症施策の推進、医療介護連携の推進の取り組みを進めている。</p> <p>また、24時間定期巡回・随時対応型訪問介護看護の整備等の24時間在宅での安心を支える医療介護の連携体制が重要であり、特に看取りを視野にした在宅診療の体制整備が急がれている。</p> <p>医療介護ニーズの高い高齢者が在宅生活を続けられるためには、医療関係者や介護関係者が連携して在宅医療(看取りケア)を実践することが必要となる。併せて、在宅医療を推進することで高齢者本人が人生の最終段階を地域の中で迎えたいという意思を尊重する選択が可能となり、本人の意思を叶えるためには、本人とその家族の心構えと共に治し支える医療いわゆる在宅医療に関する理解を得ることが重要であることから、医療介護の連携や在宅医療の重要性を医療介護関係者や市民に啓発していく必要がある。</p>
事業目的	<p>都市部の高齢者が自らの希望に応じて本市に移住し、「第二の人生」を歩むことを支援するために、人生の最終段階まで自分らしく生きることを支援する継続的なケア体制を市内に確保する。そのために、医療介護関係者及び多くの市民に在宅医療(看取りケア)の必要性を普及啓発することで、本人の意思が尊重される医療・介護の必要性が栃木市全体に広がり、市民が在宅医療のサービス提供体制を強く求めるようになる。</p> <p>また、従来は医療介護サービスの受け手として「受動的」な存在であった高齢者を、栃木市版CCRCにおいて、同世代の高齢者の生活を支援する人材として「主体的」な存在として位置付けることを想定しており、高齢者が地域社会に溶け込み、地域住民や現役世代とともに高齢者が安心して暮らすことができる栃木市版の地域包括ケアシステムの構築を目指す。</p>
事業概要	<p>栃木市版CCRCの推進に当たっては、高齢者のニーズに応じたきめ細かな支援を展開し、定住に結びつけることが重要である。</p> <p>その一環として、地域住民が構想段階から、「高齢者が地域社会に溶け込み、多世代との協働や地域貢献ができるコミュニティをどのように形成していくか」についての意見交換や検討を行う機会を設けることが必要であり、今年度は市民に対する在宅医療(看取りケア)の重要性や必要性を普及啓発するための講演会(シンポジウム)を開催した。</p> <p>【平成28年度】</p> <p>①在宅医療に取り組む実践事例による講演会</p> <p>②施設、在宅ケアに関わる医療介護関係者による事例発表及びシンポジウム</p> <p>開催日 平成28年11月5日(土)</p> <p>場所 栃木サンプラザ(栃木市片柳町2-1-2)</p> <p>講師 石飛 幸三氏</p> <p>テーマ「施設における看取りケア」</p> <p>※事例発表者及びパネリストは検討中(栃木市内で看取りケアを実践する医療・介護関係者)</p> <p>【平成29年度以降】</p> <p>同様の講演会の他に、介護人材の育成のための研修会等を実施する予定。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】「本市への新しい人の流れをつくる」</p> <p>【具体的施策】生涯活躍のまち構想(栃木市版CCRC)の推進/生涯活躍のまち構想(栃木市版CCRC)事業</p> <p>【KPI】東京圏から移住した高齢者数 H26:0人→H31:80人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

事業内容	28年度		支援期間の事業費計	
	金額	割合	金額	割合
市民特別講座「最期まで住み慣れた自宅で暮らすための看取りケアシンポジウム」				
①実行委員会				
②シンポジウムPR活動				
③講演会及びシンポジウム				
事業費	621,228		621,228	
市町支出金(ソフト事業分)	300,000		300,000	
うち県交付金	150,000		150,000	
市町支出金(ハード事業分)	0		0	
うち県交付金	0		0	
その他自主財源等	321,228	0	321,228	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	保健福祉部 地域包括ケア推進課 地域包括ケア推進係
担当者名	中村 康広
電話	0282-21-2247
FAX	0282-21-2670
E-mail	houkatsu@city.tochigi.lg.jp